○中略天雄、烏頭、牡荊子、各六升、○下略

〔親俊日記〕天文七年七月六日丁丑、瑞竹留守見舞、附子四兩預ケ置之、

〔採藥使記中奥州〕照任曰、奥州ノ鍵トリト云フ所ヨリ白花ノ附子ヲ出ス、又碧色ノ花モ有リ、其根大キナルモノ三四寸、徑一二寸計アリ、獻上ス、

〔袖中抄二十〕とくきのやちしまのえぞ

あさましやちしまのえぞのつくるなるとくきのやこそひまはもるなれ

顯昭云、とくきのやとは、おくのえびすは、鳥の羽のくきに、附子と云毒をぬりて、よろひのあきまをはかりているといへり、附子。矢。といふはこれ也、

〔鶯流狂言記二十三〕附子

主○中略あれはぶすといふて、人の身に大毒の物、○中略能う番をせい、○中略シテ砂糖でおりやる、○中略二郎實と是は砂糖でおりやる、賴だ人にだまされておりやる、○下略

石龍芮

〔新撰字鏡草〕石龍芮比、又地椹、又彭根、又天豆、不加豆彌、又云牛乃比太、

〔本草和名八草〕石龍芮仁謂音如銳反一名魯果能、一名地椹蘇敬注云、實如桑椹、故以名之、一名石熊、一名彭根、一名天豆、一名蓄菜子、出陶景注一名水堇、出蘇敬注一名王孫菻、一名水菻、一名水莨、已上出穆穆疑一名水薑苦、出釋藥性一名水建、出書婆方和名之々乃比多比久佐、一名布加都美、

〔倭名類聚抄二十草〕石龍芮　本草云、石龍芮、如銳反、和名布加豆三、

〔箋注倭名類聚抄十草〕陶注、東山石上所生、其葉芮々短小、其子狀如葶藶、黃色而味小辛、蘇云、今用者、俗名水堇、苗似附子、實如桑椹、故名地椹、生下濕地、五月熟、葉子皆辛、山南者粒大如葵子、關中河北者細如葶藶、陶以細者爲眞、未爲通論、圖經今惟出兗州、一叢數莖、莖青紫色、每莖三葉、其葉芮々短小、多刻缺、子如葶藶、而色黃、蘇恭云々、此乃水堇、非石龍芮也、今兗州所生者、正與本經陶說相合、爲